

第 4 次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第 2 回） 議事要旨（案）

日 時：令和元年 10 月 24 日（木）午後 5 時～午後 7 時

場 所：多摩市役所 401 会議室

出席者：

梅澤 佳子委員（副委員長）

青木 ひとみ委員

野口 享子委員

五十嵐 亮委員

小泉 雅子委員

小林 攻洋委員

松本 敏雄委員

木村 治生委員

岡村 志穂委員

喜多 尚美委員

欠席者：

笹井 宏益委員（委員長）

傍聴者：なし

<会議次第>

1. 開会
2. 議事要旨確認
3. 委員の活動紹介
4. 報告
 - (1) 生涯学習に関するアンケート実施報告
 - (2) 多摩市の生涯学習を考えるワークショップについて
5. 議事
 - (1) 生涯学習推進計画の方向性について
6. その他
7. 閉会

<配布資料>

【事前配布】

- ・第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会 次第
- ・資料1 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第1回）議事要旨
- ・資料2 多摩市「生涯学習」に関するアンケート調査報告書（速報値）
- ・資料3 生涯学習に関するワークショップについて
- ・資料4 計画の方向性の検討に向けて
- ・資料5 第3次計画の進捗確認について
- ・資料6 国・都の動向について
- ・資料7 他市事例
- ・資料8 本市の「今後の課題」と関連データ
- ・参考資料 第3次多摩市生涯学習推進計画
- ・参考資料 第五次多摩市総合計画第3期基本計画

【机上配布】

- ・障がい者団体の意見聴取方法について
- ・令和元年度 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会 年間予定
- ・第4次多摩市生涯学習推進計画策定スケジュール
- ・活動紹介シート及び活動を紹介する資料（3委員より提供）

1 開会

(梅澤副委員長よりあいさつ)

2 議事要旨確認

【副委員長】

それでは、議事要旨の確認をさせていただきたいと思います。第1回の策定委員会の議事要旨につきまして、事前に事務局よりみなさまにご確認をいただいていると報告を受けておりますので、今回は割愛させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。続きまして、3の委員の活動紹介に移りたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

3 委員の活動紹介

【事務局】

(机上配布資料(活動紹介シート)の説明)

【副委員長及び各委員】

(活動紹介シート及び活動を紹介する資料をもとに自己の活動を紹介)

4 報告

(1) 生涯学習に関するアンケート実施報告

【事務局】

本日の次第4と5、報告と議事につきまして、内容の説明をいたします。

(資料4に基づく説明)

(資料2について説明)

【副委員長】

それでは、すでにみなさま事前にお手元にこちらの資料届いていると思うのですが、みなさまから何かご質問やご不明な点、あるいはご意見ご感想など色々とお寄せいただければと思うのですが、今のところ速報値ということになっておりますので、いかがでしょうか。

【委員】

いくつか質問をあるので教えていただきたいです。まずつかめる内容になったのは非常によかったというふうに思っています。単純にデータを読み解くだけでも約半数ぐらいが参加していて、その中で趣味や教養、割と個人をベース、地域というよりはどちらかというと個人の関心をやはり追求していきたいという意向が多いとか、それから今後やりたいのは健康やスポーツ、趣味や教養、そういうものが比較的多いというような概略つかめたというのは非常に大きな価値であると思ったのですが、一番気になったのは属性のところで高齢者の回答が非常に多いのですが、実際にその多摩市の人口分布を考慮した

ときに、どれぐらいずれているのかというようなことをまず知りたいと思いました。先ほどご説明の中にクロス分析されるというお話があったので、年齢別年代別にデータをもう少し丁寧に見ていくことがおそらく重要で、高齢者の意見がかなり反映されているアンケート結果になってしまっているの、そこはどう考慮していくか、できれば全体の数値を見るときは重みづけするとかして、より人口分布に近いような形で見ていかないと、政策として考えるときに引きずられる可能性があるのではないかと少し感じたのですが、まずその辺のその多摩市の実際のその年齢分布とのずれのようなことを把握されていたりしますでしょうか。

【事務局】

資料8の今後の課題と関連データというところに人口分布について載せており、2ページ目に人口の構成について簡単に触れておりまして、3区分で年少人口と生産年齢人口と高齢人口の区分で構成は把握していただいているのですが、実際そのアンケートとの年齢層との対比というのは今現時点ではできておらず、ここについては今後クロス集計なりしていく部分で、少し考えさせていただければと思います。

【委員】

私も感想だが、まず回答率非常に低いです。おそらく若い人は答えていないのではないかという気がする。圧倒的に高齢者が多い。かくして高齢者に対する施策が重みをもつ。それはそれで大事なことなのですが、そのような感じです。

【副委員長】

委員のみなさん大きくなずいていらっしゃいますが、他のみなさんいかがでしょう。

【委員】

だいたいこのようなことをやるときの回答率はもっと高いものなのではないでしょうか。そもそも無作為でやったりする場合は。

【事務局】

スポーツ推進計画など策定中のものでいきますと、3割から4割程度、だからこれよりも少し多いところなんです。また市の世論調査を2年に1度させていただいているのですが、こちらだと5割程度。それに比べて今回の生涯学習このアンケートについては少し回答率が低かったのではないかとこのころではございます。

【委員】

難しいものね、生涯学習。

【委員】

生涯学習ということ把握されてらっしゃらない方というのが多いと思うのです。やはりスポーツとなると興味があると思ったら回答しよう。生涯学習は本当に難しい、一言では言えないので。それをどう体験するかというその生涯学習というのを、さらに違う言葉に置き換えて案内するとかしないと。実は主人に市の方から生涯学習の手紙来ました、ほったらかしです、もう何も見ません。

【副委員長】

このアンケートということですか。

【委員】

アンケートではなく、ワークショップに参加しませんかというものが来たのですが、結局やはり仕事が忙しいのでほったらかしという状態で。やはりぱっと見たときに興味を持つような感覚、生涯学習のアンケートです、だと、ちょっとわからないのではないかと思ったのですが。一番最後のこちらの方の知っていますかというところに少し驚いてしまったのです。出前講座とかの。こういう市の方から色々政策があるのにも関わらず、知らないというのがこんなにいらっしゃるのかというので、少しこれに驚いています。

【副委員長】

事前にアンケートするときに、市の生涯学習に関する取り組みはぜひ入れたいというようにおっしゃっていらして、それがどう出るかなというところだったのですが、どうですか。

【事務局】

やはり周知が難しく、足りていない部分ということを改めて感じたというところではあります。第4次の生涯学習推進計画等でも、そこについてどう見ていくかというところを考えられればと思います。

【委員】

ざっくりばらんに話をしたい。出前講座に集約して生涯学習というものをとらえてしまうと、興味がない人は関係ないです。だから生涯学習そのものの考え方はもっと多様でなければいけないということを出していかなければ。例えばこちらの方、踊りや盆踊りをやっています。地域の祭りなどもあります。そういうことも含めて本当は大事な生涯学習です。そういう視点に立って議論をしないと、講座が全てのような感じになってしまうのはどうかという思いがしますが、いかがでしょうか。

【副委員長】

逆にそういう色を付けてしまうというか、こういうのが生涯学習なのだというのを、この最後のところで。

【委員】

そういう議論をどこかで私自身はやりたい。

【副委員長】

そうですね。

【委員】

どこか大学の先生が教えるのが生涯学習ではなく、地域の中でお互いに切磋琢磨して教えあうのが生涯学習だという。そうすると、施策としては広がりが出てきますよね。

【副委員長】

まさに今小林委員がおっしゃることそのものだと思うのですが、多摩市では生涯学習をこのように捉

えていきたいというか、生涯学習としての考え方や学問的な概念というのはあるのですが、やはり多摩市では生涯学習というのはこのようなとらえ方をし、元々広い概念ですから、そういったものを多摩市なりにこのような理解で、みんなで進めていきたいと思えますという、ひとつみんなが共有できる考え方というものを、この推進計画の中で発信していくということも重要なかもしれません。

【委員】

計画の中では課題としてきちんとうたわれているのです。地域の中でお互いに助け合う活動というのが。それを施策にどう落とし込むというのかおそらく大事なことだと思います。

【副委員長】

結局そこが非常に難しい部分なのです。なかなか形にできなくて。結局それが学習ではなくて、活動しているうちに、まさに健幸まちづくりの考え方なのですが、やっているうちにそこでお互いに気づきはあって、そして次の面白さというか深さに繋がっていくというそのプロセスになってくるので、その辺のところ非常に難しいところだと思う。それをどういうふうな形でそういうプログラムを作っていくかということが。ある種プログラムになった瞬間にそれが上から降りてくるものに。

【委員】

だいたい行政計画がそうなのです。私も経験がありますので。プロセスをどう書き込むかということが大事なので。

【委員】

読んでいて、議論のベースが健康しかないのかと思うと非常にさみしいと思ったのと、今もう活動されている方がいるのに、健康に関してだったら、委員の中にも、同じ多摩の中でされている方がいる。そういうところに参加できるのではないのかとか、もっと横がないのか、個になっていて、つながっていないから、健康が一番困っているという情報がほしい、しかしない、というような世界観になってしまっている。ベースで一番大切なところなのだが。そこはもう基本的なところだと思っていたところが自分の中ではあったので。やはり自分よりは確実に年齢上の方の意見がやはり多いので、これで進んでいくと、よりこの今後の多摩市が魅力的かというところで、健康いいよね、というだけの学びだと若者がついていくのか、というところが気がかりだなと思いました。

【副委員長】

ごめんなさい、健幸都市というのを思い出してしまって。

【委員】

健幸都市なのです。みんなの健康は非常に大事なのですが、ある意味当たり前な感覚があったので、これでは正直いい行政として見えない。もちろん健康は大事です。それはなくてはならないものなのですが、健康だけ推し進めた結果にみんなが生き生きして生きられるのかというと、また違うところもあるのではないのかというのは、私は自分自身が母子家庭だったので健康とかそういうことは考えたことがなく、生きていく、稼ぐ学ぶ、学ぶことなんて全くなかったのですが、やはり誰かが教えてくれて学ぶ価値を知れる場がなかったのです、私の場合は。なかったので知るタイミングできっかけになって学

んでいけたのですが、健康というのは100年時代で当たり前なのですが、見ていてこれなのかという少しだけさみしさを感じました。

【副委員長】

今の岡村委員がお話されたことは、先ほど喜多さんも色々と教育の格差とか色々な話が出ていましたが、やはり非常に重要な視点ですよね、これからね。やはりそのところが30代40代の方の声がもっとこのアンケートとかから出てくるような、あるいは何らかの形で聞けるような形があって、そこからもう少し色々と計画の策定につなげていけるといいのではないかと思います。

【委員】

私やはり生涯学習というもののイメージが、時間とお金そういうものの余裕がある程度できてからしか考えられない、だから高齢者が多くなる。やはり学生さんはもう勉強のことや部活のことでいっぱいだし、それから社会に出ればお金を稼いで自立しなければいけないということで仕事のことで頭がいっぱいでその世代、世代でみなさん大変です。その中で興味を持って色々な趣味とか色々な活動ももちろんしていらっしゃる方もいらっしゃいますけれども、それでいっぱいの方の方が多いので、生涯学習やれとかそういうふうに言ってもそれは無理だと思うのです。人間は興味のあることにしかアンテナが飛ばないから、それぞれみなさん十人十色でやはり興味のあることも違うのだから、それを何とかしようと思うこと自体が、無理。ただ、その世代その世代、お子さんを持っている方たちがどういうものを欲しているかとかどのような悩みがあるかという課題について色々お話するのはいいのですが、何も時間があっても勉強したくない方もいるし、色々なので、ただやはりその方たちは楽しく生き生きと暮らせるように情報や場を提供すること自体はいいと思うのですが、若い世代の方たちというのはやはり生涯学習どころではなくて、ただ子育てにしても学校で学ぶことにしても学習活動の一環だと思うのです、社会に出てお仕事する。それは全てが学習なのでそれを一生懸命やってらっしゃるからそれはそれでいいのではないかその世代は。

【副委員長】

ちょうど私が大学生ぐらいだったのですが、高度経済成長期に生涯学習という言葉が出てきたときに、ある私の入っていた委員会で生涯学習の「がく」を楽しいという字にしませんかというようなお話が出たのです。ある意味本来の生涯学習からの道を外れたといえますか、高度経済成長期にです。本当に今青木委員がお話されたような楽しく学ぶというような教養を深めたりすることが生涯学習なのであるという方向へかなりいった。それから海外旅行に行くために英語ができればいい、ショッピングするときに英語が喋れた方が素敵というようなことで、公民館の英語の講座を受けるといった方向に、本来はそうではないのですが、そうではないにもかかわらず非常に日本が豊かだったということで、むしろ生涯学習というものの考え方というのが少しずれてしまった時期があったと思うのです。まさに今それをしっかりともう一度本当の意味でみなさん色々な方たちが色々な世代の色々な背景を持った方たちが学べるときに学ぶ機会がある、それからやはり気づくチャンスがある、この第4次の多摩市の生涯学習というのは3次からそちらの方へ舵をきっているとおもうのですが、さらに進めて今現在起こっていること起こっている課題、それをどういうふうな形で解決に向かうような道筋が描けるのかという方向へ

持っていく必要があるのではないかという気がします。

【委員】

みなさん言語化が上手だと思って関心して聞いてしまっていたのですが、今子育て真っ只中の一意見としていうなら、今回のアンケートについてはやはり高齢者の方の回答が多いからどうしても傾向がトップになるのだろう。子育て世代の方も一部やはりいるのですが、一応2位3位とかぐらいにおそらくいそうな感じはするのですが、やはり回答率をもう少し上げるにはどうしたらいいのかと思います。生涯学習という言葉については、やはり生涯学習が地域の交流に参加するとかおそらくみなさんやっているとは思っているような気はするのですがイメージとして紐づいてない。その地域活動を自治会に参加しているとか、消防団入っているとか、おそらく消防団入っているぐらいだったら、それでもおそらく紐づかないで回答されてない方もいるのではないかと少し思ったりはしていました。よく話しているのが、そもそも定住するのかがどうかわからないので多摩市に対して。しかも働いている方が定住してくれるとおそらくさらにまちづくりとか活性化するのではないかと思ったりするのですが、多摩市がベビーシッターの制度とか、少し子育て世代に対する施策がもう少し欲しいなどと話をしているのです。

【副委員長】

結局今定住ということ、移動するかもしれないという意味ですか。いわゆる子育て世代がということね。

【委員】

はい。そうです。お家買われてる方はおそらくもちろんローンもありますから今後ずっと長い間多摩市にいるとは思いますが、実際賃貸の方はどうなのか、そもそも会社の転勤うんぬんというよりは住むところは結構まだあるものなのですか、多摩市は。多摩市は若い方がこう入ってくる、土地はあるのかな。多摩センターは今マンションが結構大きく建っていて、でももうしばらくは建たないでしょうと言われていていると思うのです。そういうところを買われたらおしまい、他に住むところとかあるのかな。URとかも子育て世代は6年間割引がありますということで入っている友達もたくさんいらっしゃるのですが、6年経ったら家賃とか上がってしまうので、また引っ越しをしよう、調布などもう少し子育てに手厚い市に行こうかなど、色々そういう話も聞くので。生涯学習ということになったときに、生涯のことを考えている余裕が、先ほど青木委員も言っていましたが確かに余裕がないのかなという印象は少しありました。

【委員】

私もよくわからないのでなんとも言えないのですが、やはりその年代年代で感じることや、子育て世代の方は子育て世代で、もう私たち子育て終わってしまった世代になってしまってお子さんのことを考えるとどうだったかと、身近にもうなくなってなくなってしまっていて、そこまで頭が回ってなかったりするんで、こういうのは色々な世代の意見を聞きながら進めていかなければいけないのですが、私もよくわからないです。

【委員】

今、私が愛宕に住んでいるので、とにかく高齢化率トップのまちのため、おそらく 60% いてしまっているのではないかと、2 年前だと 58.4% ぐらいだったので。今私はもう高齢者一本というわけではないのですが、やはりなんとかしなければいけないということで取り組んで色々な協議をやっているのです。一番最初に言ったように、孫に会いたくて仕方ないのです、年寄り。さみしく毎日ご夫婦あるいは一人で暮らしているので、行事を多く増やせば孫を呼び寄せる機会・チャンスが増えるので、多くの行事を増やして、やる方は大変なのですが、その反面ぼけなくて自分も元気でいられる。先ほどから健康という話がよく出ていましたが、やはり健康で長生きなまちにするためにはどうしたらいいだろうかということが一番先決なのです。そのため色々なこの生涯学習のように学習という言葉に対して老人は非常に嫌います。認知症は意外と大変結構出席率は大変いいのです。それ以外の学習など老人は来ないです。そのため例えば私が別添で出した資料のこの左下から二番目の地域福祉推進活動、色々なものが載っていますが、4 つある写真のうち左下がおむすびランチ会というものなのですが、これなどはみんなでおむすび握って食事しましょう、亭主の顔みながら飯食ったって旨くないだろうと言って。そしてこの中で脳トレをやってもらったりとか、それから体操・運動をやってもらったりとか、それから今振り込め詐欺でこのような事件が流行っているということを、その中に取り込んでしまうのです。そうすると結構色々お年寄りも、楽しいな意外とこの会はなどと、ついでに色々な学習を教えられるという利点があるのです。それが私の狙いでございます、これからも急速に取り組んでいきたいと思っておりますので、認知症講座の場合は色々な先生を読んでいるのですが、ただ黒板の前で色々な学習をさせる先生というのは面白くないと、あくびが出る先生はもう呼ばない。楽しく話してくれる、例えば首都大学東京の星旦二先生などはあの人は大変面白く話してくれるので、あのような先生を呼ぶと人気になるのです。そういったことに心がけながらやっていますし、もう 5～6 年前から取り組んでいますし、今後も取り組んでいくつもりでございますので、どうぞご参考ください。

【委員】

いま松本さんがおっしゃったように、行政は縦割りなのです。しかし地域は縦割りではないため、本当はその間のところが非常に面白いことが多くあるのです。先ほどの、おにぎりなどもそうです。郷土のおにぎりを作って食べる、食べてつながるというイメージも大事だし。年齢で輪切りにするのではなく、やはり多世代の活動が一番面白いと思うのです。

【副委員長】

もう生涯学習推進計画の方向性の方に少し今も話が進んでいるところで、少し順番を入れ替えたいと思うのですがいいですか。少し私一言だけいいですか。このアンケートを見ていて、やはりご高齢のみなさんがお答えいただいたのだということで色々と思ひ浮かべながら読ませていただいたのですが、最初の方でやってらっしゃることは趣味や教養、健康ということなのです。ところがみなさん興味関心もそういうところであってあまり地域やまちづくりは出てこないのです。これが私は大変ショックだったのですが、最後のところで、17 ページなのですが、問 18 で、最優先に解決されるべき地域の課題は何かと聞いたときに、だけれどもまちづくりが三番目に出てくるという。やはりこういうところが、少し私も小林委員などは積極的にそれを自らやりつつというところなのですが、実際にはやはりご高齢の方

たちは、先ほどの自分の趣味や個人のことをやっているのですが、最優先に考えているのはということになるとまちづくりも入ってくるというところがある。

【委員】

高齢化も含めて、人と接した方が本当は楽しくて生き生きと生きられる。そこを少し勘違いさせて自分の趣味だけをやっていけばいいという。今の若い人は逆に趣味に走ってしまう人が多い。それも少し危ないという感じがするのです。なんとかオタクというような感じになってしまう。面倒くさいことの方が結果的には楽しいことが多いということ。

【副委員長】

気づかされることが多いです。

【委員】

そうです。

【副委員長】

ありがとうございます。この後ワークショップの話が流れとしてはあるのですが、5番目の生涯学習推進計画の方向性の方へ進めて、後でワークショップのお話をして説明いただいた方がいいような気がするのですが、いかがでしょう。

【事務局】

問題はないです。

【副委員長】

いいですか。ではそのような形で。では、生涯学習の推進計画の方向性。先ほど少し事前に説明してくださっていましたが、ありますか。

【事務局】

回答は先ほどご説明いただいたところの中で、資料5の部分、第3次計画の進捗確認について、市の方で確認をさせていただいたところの情報提供というところでございます。資料5を見ていただきながらお話を聞いていただければと思います。

5. 議事

(1) 生涯学習推進計画の方向性について

【事務局】

(資料5～8について説明)

【副委員長】

生涯学習推進計画を我々は考えていくにあたっての方向性につながるような資料を取りまとめた上で、今一通りご説明いただいたというところでございますが、事務局の方から説明いただいた取り纏め資料に基づいてわたくしたちがこの方向性を考えるにあたり、補足というか、解説というか、説

明の方をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

(資料 4 について説明)

【副委員長】

この第 3 次多摩市生涯学習推進計画が目指した方向性、こちらの方の 3 つ、これでいいのか、あるいはこれに何か新たに加えたり少し修正していくことがあるのかどうかということについて、みなさまからご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。少しお考えいただいて。

【委員】

あまり考えないで。先ほどの資料 8 の方を拝見してしまして、最後の方の資料になるのですが、13 ページからずっと見てしまして、例えば公民館やその他色々な施設の利用状況というのが、スポーツ、総合体育館以外はあまり上昇していないというデータです。しかも図書館の貸し出し冊数の推移というのは下降していくということ踏まえて考えますと、どうも公共の施設を使う人たちというのは減りつつあるのではないかと、今後さらに。使っている方のほとんどが割合年齢の高い方たちが多いのが現状なのです。学びあい育ちあい審議会の方で細かく公民館の使用状況などもご説明いただいているのですが、その中には年齢などは出てこないのですが、やはり年齢層が高い方たちが使っている施設が次第にこれから先急速に使われなくなっていく確率が高いということをも認識した方がいいのではないかとことです。だから場の提供というように市の方はおっしゃっているのですが、その場の提供が全く違った形ではないと若い方たちや子育て世代には反映されないといえますか、特に夜間、夜間は普通でしたらお仕事が終わってからや大学生の方などが使ってくれるのはコミセンや公民館などいいのですが、一切なくて、ほぼ夜間は開店休業状態のコミュニティーセンターなども多いということ、少し整理して考えていかないといけないかなと思っています。それから、もう一つ加えますと、資料 5 の目指す方向 3 のところなのですが、この方向はいいと思うのですが、成果指標の地域活動を通して自分の力を発見発揮できる機会があるまちだと思える市民の割合が減っています。資料 8 の 11 ページを見ていただくとわかるのですが、これからも参加したいと思わないというところの数値が高いのは PTA や父母の会の活動、それからいわゆるその下の方の色々なボランティア活動や国際交流活動など、ほぼ半数ぐらいの市民の人たちがやりたいと思っていないという状況の中でこの成果指標はどうなのか。これを成果指標にしても地域活動したくない人です。ここは、この成果指標自体変えていかないといけないのではないかと思います。

【事務局】

方向性については今おっしゃっていただいたように、目指す方向性は変えずにこの成果指標だけ見直しをするというの、ひとつやはり少し今後検討していかねばいけない部分だとは考えておりますので、いまこちらのものではない何か別のこういった形での指標を設けてはどうかというご意見も少しいただけますと幸いです。

【委員】

この目指す方向性というのはあくまでも個人と個人、コミュニティーの問題を意識されている目標に

はなっているのですが、生涯学習というのはやはり「個」だけの問題のときもあるのかと思うのです。その人の特性を活かした自己実現です。そういうそのコミュニティーがどうしても苦手な方はいらっしやると思うのです。その人を無理に人の中に入れてではなく、その人の特性を活かしてその人を尊重するような、個ひとりを尊重するというその方向性もひとつあっていいのではないかと少し思いました。

【委員】

第3次の目指す方向性のところで、場を作って仕組みを作ってまちづくりになるというような、順番的にもおっしゃっていたのですが、課題の5であがっているように持続可能なまちづくりができていればの話だと思うのです。私これが結構土台の中にあって人が触れ合う、何か逆なのではないかと大変思いました。それって結局一人一人が学んで、全て学ぶことはできるのですが、それが還元される社会になる仕組みをつくれると。もっと、結構アンケートなどを見ていると自分の利益や何かがないと頑張れないというようなところが結構私はみていたので、例えば極端な例ですが、ごみがいくら減ったらごみ袋が少し安くなるなど、そういう何か小さなことですが、逆に、人ありき地域ありきなのですが、地域ありきに。学ばなくても学んでも正直どちらでもよく、グローバルにダイバーシティと言われているのでなんでもいいのですが、持続可能なまちなのかどうかというのが、これは大変私は思っていて、前も1回目の時も、10年後もあると思っている市ですかと言ったのですが、それは結局そういう意味なのです。

【副委員長】

今行政も国も、持続可能が流行っているのです。Sustainable というのが流行っている。

【委員】

その部分が本当にそれだけで生きていけないのではないかと、私は少し世の中をみて思うので、したがって、学ばなくてもいいのです。学ばないところは確実ににおいていかれるだろうと私は思っている。学ばなくてもいいのです。ただ、世の中やはり変化が異様に早い、スピードが、気が付けばもう変わっている。そういう中で生き残っていくには学ばないといけない。なんとなく作って行ってまちができてしまったというのではなく、まちを作った中にそういう自立して自分の選択できるようなものがあるのではないかと考えています。以上です。

【委員】

この第3次生涯学習の計画の目指す方向性は大変素晴らしいと思いますし、多摩市のいいところでもありと大変感じるのです。人がいいという、多摩市は人が大変いいと思うので、これをさらに強固なものにするというのは、やはり災害なども今大変大きくなっていますし、そういう時に助け合うことができるには、日ごろのこのコミュニケーションをもう少し密にしていきたいと思うところではあるのですが、ネットの整備などというのは、おそらく生涯学習の枠を超えてしまうのかもしれないのですが、情報収集の仕方というのも10年前とは大きく違うと思うのです。今はもうみんなひとり一台、ひとり二台三台タブレット持っているなどという時代に、合わせて情報収集も市役所に来ないと得られなかった情報がやはり手元で得られてしまう。人と直接コミュニケーションをとらなくてもネットでコミュニケーションがとれてしまう。先ほどスピードが早いと岡村委員も言っていましたが、やはりそれについて

いけないのではないかと少し思うのですが、そのあたりは市として。

【副委員長】

ついていけないというのは、市の方がということですね。

【委員】

そうです。その環境を整えると、おそらくさらに若者世代は、それこそ毎日配信が自動的に来るようになるとか、今多摩市はこういうことをやっている、おそらくホームページなどはあると思うのですが、自分からアクセスをすれば得られるかもしれないのですが、何かこう自動で来るようになったり、何かそういうお考えがあるのだろうかというのが少し気になりました。このアンケート平成 22 年と平成 30 年のこの成果指標の先ほどお話をされていた方もいらっしゃいましたが、このアンケートは今回のアンケートのようにランダムで送られてそれに回答があった方の数字だったとすると、結局やはり一部の高齢者の方がメインとなって回答されているのだとすると、この政策自体も方向性は高齢者に向けて、さらに多くやっっていこうという政策にすると、おそらくこの回答率とか達成率のような目標を達成したという感じになってしまうのではないかと思ったのです。そのあたりが少し気になるころではありました。

【事務局】

ひとつ補足をさせていただきますと、成果指標につきましては、これは世論調査の中で多少少し表現が変わってきているところもあったりして、補足しづらいところはあるのですが、表現が変わったところもあるのですが、この言葉に近い表現で質問している項目を、成果指標として比較しています。

【委員】

先ほど回答率が 50%ということで。

【事務局】

5 割から 6 割ぐらい。

【委員】

その回答率も先ほどおっしゃった分布率もやはり高齢者寄りなののでしょうか。

【事務局】

分布はまた改めて確認させていただきます。

【委員】

成果指標や目標値の妥当性はどうなのでしょう。これで評価しようというのは結構厳しいのではないかと正直思ったのですが、目標値などはどのようにして設定しているのですか。

【事務局】

成果指標については、その当時どういった経緯で策定されたのかこの数値で決定されたのかというのが細かく残っておらず大変申し訳ないのですが、ある程度推移をおそらく見ていった形で 10 年後であればこれくらい増えているのではないかというところの中で、少し世論調査の結果等も見ながら設定したのだろうというように考えております。一番下の部分、乖離が一番大きい表については少し違ってお

りまして、この22年度当時に発揮したいと思う市民の割合が40%程度いらっしゃいまして、その方々が実際に発揮できるまちだと思ふかというところでの設定だったりしております。では実際に思っていた人たちが実際に発揮できたというような、そういったところで40%という目標値に設定しております。ただ、今先ほどおっしゃっていただいたように、今回の策定方針、前回第一回の時に策定方針をお示しさせていただいていたところでも、やはり進行管理について生涯学習推進計画こういった形で進めていくか、もちろんこういった形で指標を設けてやるのか、毎年度何か形式的な評価をするのか、そういったところも含めて少しぜひともご意見をいただければというようには考えております。

【事務局】

成果指標等につきましては、また第3次ではこのようなそれぞれの3つの方向性にそれぞれひとつずつの成果指標というものを作ったのですが、前回の笹井委員長の話にありました通り、生涯学習推進計画というか振興行政というものはタスク管理ではなくてプロセス管理というところがあるので、果たして数値化する、数値で評価をするものが適切かどうかというのが非常に難しいところがありますというご意見もありました。ただこの時は行政の考え方も踏まえてこのような成果指標を作っていたというところでございます。今後この会議は全部で9回やっていくわけですが、今日は全体のその方向性のところについての議論ということで、今後中身の骨組みやそれをどのように評価していくのか、成果指標そのものをやるのかやらないのか、その時にはこれでいいのかどうかといったところを、今後また詳細にご議論をいただければと思っております。今回はただ総括ということでございますので、そういった視点でのご意見はぜひ承れればと思います。

【委員】

成果指標についてはわかりました。私はどちらかというとなら成果指標よりもやはり気になるのは、この目指す方向性の3つがもしかしたら事務局の意向と違う発言になってしまうかもしれませんが、先ほど言ったような3つのステップにあまり最初見たとき感じなくて似た言葉が並んでいるという印象の方が正直強かったです。ふれあいやつながり、助け合い、も「合い」があります。関わり合いながら、協力、どちらかというとならつながりが重視された表現が多くて、先ほどのご意見と私も結構重なるというか似ているのですが、つながりは非常に大事なのですが、つながりの前に人が生きるということや充実して生きる、その中で能力を高めていくなど、そういう要素もやはり重要なのではないかと思います。他市や国の文章などを見てもそうですし、いま全体的にその流れの中で、社会人の学び直しというようなことがやはり非常に重要になってきたり、大学もおそらく地域の人材育成のようなことを非常にやらなければいけないということが、割と政策的に降りてきている部分もあると思うのですが、まず個人としてのきちんと生きるということをやって、その上でつながり、つながりがまちになっていくという、先ほどのご説明はそういうステップだったと思ったのですが、この文言はあまりそうになってないというように私は少し受け止めました。前半の議論とも重なるのですが、先ほどもアンケート調査で高齢者の意見に寄っているという話があって、多摩市のこの課題を見ると30%を超える高齢化率になるという。高齢者の声を反映させるという部分はおそらく一定程度はやはり重要で、人生100年時代の中でどうやって充実して生涯を過ごしていくかということを考えるということや、おそらく福祉や医療などそういう政策にも関わってくる。充実していければもしかしたら福祉のコストが下げられるかもしれない、そ

ういったことともきつと関わってくるので、高齢者のことはやはり非常に重要だとも思うのですが、同時に先ほどの30代40代の意見がやはりあまり反映されていないことをここで確認されたので、30代40代それでも25%は回答しているため、その意見をもう少し引き出したり、あと回答者バイアスの問題があって20%しか回答していないため、割と貧困の方やそういった方が回答していないのだろうということを見ると、別の手立てでヒアリングするかワークショップなどの場を使ってそういう声を拾うというようなことはできるといいのではないかというように思います。できるだけ3つの方向性にとらわれない方が私はいいのではないかというように少し感じたので、その辺はもう少し文言は検討したいというように思いました。

【事務局】

今後次回に向けてクロス集計をさせてもらうところで、その辺りについて少し反映した形でまとめていただくようにしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【副委員長】

外国人の人口の推移などをみても、やはりその多様性とか、色々なところに目を向けていかないといけないというように感じました。コミュニティーをもう一度再生したいという気持ちが熱くここに込められているのですが、本当にこの3つともそのような方向性が絡み合っているというようなところがあるので、もう少しほぐして生涯学習という幅広い意味合いに少し検討していかなければいけないだろうというようなご意見を色々いただきましたと思います。それではあまり時間がないのですが、これだけだと、五十嵐さんどうでしょう、何かありますか。

【委員】

自分の勉強不足もあるのですが、上位計画と今策定しようとしている生涯学習計画の関係性がいまいちよくわからないのですが、より上位の計画ではかなり具体的なことも言っているような気がするのですが、今この生涯学習計画の議論が割と抽象的に推移しているので、この辺りは例えばアンケートの詳細版のようなものを少し準備して検討する段階だったならば割と話が進んでいくのかどうなのか少し自分の中ではまだ消化しきれていない状況です。

【事務局】

今日は大きな方向性の話ということになりますので、本日机上に配布をさせていただきました策定スケジュール全体像をお配りしておりますが、策定委員会これから今第2回ということで方向性検討に入っておりますが、最終的に5回の会議を重ねてまいります。今回と次回で方向性の検討ということで、先ほど今この3つの方向性といったところで、基本的な考え方はこれでいいかどうかというような議論を解消させていただいたところがございますが、この次に骨子案の検討や素案の検討という形で肉付けをしていくというのが急速にプロセスに入っております。その中で様々な具体的なこと、第五次多摩市総合計画の第3期基本計画の考え方を踏まえて多摩市の生涯学習推進計画としてはどのように肉付けをしていくのかということをしつづつ大きなところから細分化していくという作業に入らせていただきたいと思います。

【副委員長】

ありがとうございます。五十嵐委員よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【副委員長】

他、いかがでしょう。それでは先に進めさせていただきたいと思います。

4 報告

(2) 多摩市の生涯学習を考えるワークショップについて

【副委員長】

先に飛ばしてしまったのですが、生涯学習に関するワークショップについての説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料 3 について説明)

【副委員長】

生涯学習に関するワークショップについてですが、何かご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいですか。それではその他のところで事務局からの説明をお願いいたします。

6 その他

【事務局】

(机上配布資料「障がい者団体の意見聴取方法について(案)」に基づいて説明)

【副委員長】

ただ今の説明につきましてはみなさまの方からいかがでしょうか。質問等ございますか。野口委員いかがですか。

【委員】

迅速に前回の委員会で対応していただきましてありがとうございます。何か私も協力できることがありましたら、言っていただければと思いますのでよろしくお願いします。

【副委員長】

それでは、その他今後のスケジュール等、説明の方お願いします。

【事務局】

(机上配布資料「令和元年度 第 4 次多摩市生涯学習推進計画策定委員会 年間予定」に基づいて説明)

【副委員長】

つたない議事進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。それでは次回第 3 回が 11 月 29 日ということでございます。今一度プロフィールの方をしっかりと読み込んでいただいて活発な議論ができればと思っております。本日はありがとうございました。

終了